【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成25年5月23日(2013.5.23)

【公表番号】特表2012-522006(P2012-522006A)
【公表日】平成24年9月20日(2012.9.20)
【年通号数】公開・登録公報2012-038
【出願番号】特願2012-502286(P2012-502286)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　31/404　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　45/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　13/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　19/06　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　3/06　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　3/10　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　43/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　3/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　13/12　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　1/16　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　37/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　9/04　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　9/12　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　7/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/585　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　31/404
Ａ６１Ｋ　45/00
Ａ６１Ｐ　13/02
Ａ６１Ｐ　19/06
Ａ６１Ｐ　3/06
Ａ６１Ｐ　3/10
Ａ６１Ｐ　43/00　１２１
Ａ６１Ｐ　3/00
Ａ６１Ｐ　13/12
Ａ６１Ｐ　1/16
Ａ６１Ｐ　37/02
Ａ６１Ｐ　9/04
Ａ６１Ｐ　9/12
Ａ６１Ｐ　7/00
Ａ６１Ｋ　31/585

【手続補正書】
【提出日】平成25年4月3日(2013.4.3)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】

対象におけるタンパク尿、高血圧、アルブミン尿、ナトリウム貯留、低カリウム血症、高カリウム血症、高尿酸血症、脂質異常症、及び高血糖症からなる群から選択される状態を治療するために、抗アルドステロン剤と共投与するための薬剤を調製するためのインドリンの使用。
【請求項２】
対象におけるタンパク尿、高血圧、アルブミン尿、ナトリウム貯留、低カリウム血症、高カリウム血症、高尿酸血症、脂質異常症、及び高血糖症からなる群から選択される状態を治療するために、インドリンと共投与するための薬剤を調製するための抗アルドステロン剤の使用。
【請求項３】
請求項１又は２に記載の使用であって、
前記対象が、タンパク尿、高血圧、アルブミン尿、ナトリウム貯留、低カリウム血症、高カリウム血症、高尿酸血症、脂質異常症、及び高血糖症からなる群から選択される状態を患っているか又はそのような状態の危険に曝されており、
タンパク尿、高血圧、アルブミン尿、ナトリウム貯留、低カリウム血症、高カリウム血症、高尿酸血症、脂質異常症、及び高血糖症からなる群から選択される状態に関連する利益を、前記薬剤の投与後に測定することができること、を含む使用。
【請求項４】
請求項１ないし３に記載の使用であって、前記薬剤が、
対象におけるインスリンシグナル伝達障害、真性糖尿病、Ｉ型糖尿病、ＩＩ型糖尿病、妊娠性糖尿病、メタボリックシンドローム、メタボリックシンドロームＸ、シンドロームＸ、インスリン抵抗症候群、リーベン症候群、ＣＨＡＯＳ、栄養不良関連真性糖尿病、糖尿病性腎症、腎症、糸球体疾患、肝疾患、腎疾患、膜性糸球体腎炎、重症心不全、ネフローゼ症候群、全身性エリテマトーデス、グッドパスチャー症候群、ＩｇＡ腎症、アルポート症候群、急性溶連菌感染後糸球体腎炎（ＰＳＧＮ）、細菌性心内膜炎、ＨＩＶ誘導性腎症、糸球体硬化症、巣状分節状糸球体硬化症（ＦＳＧＳ）、膜性腎症（膜性糸球体症）、肥満、微小変化型疾患（ＭＣＤ）、心不全、高血圧、肝不全、急性腎不全、慢性腎疾患、鬱血性心不全、タンパク尿腎疾患、糖尿病性腎症、糸球体腎炎、アミロイド症、及び薬物誘導性腎疾患からなる群から選択される疾患を治療するために投与される薬剤である使用。
【請求項５】
対象における血糖レベルの恒常性、血清カリウムレベルの恒常性、血清尿酸レベルの恒常性、正常な心室リズム、及び正常なＱＴ間隔からなる群から選択される状態を促進するために、抗アルドステロン剤と共投与するための薬剤を調製するためのインドリンの使用であって、
前記薬剤と抗アルドステロン剤との共投与では、前記薬剤または抗アルドステロンのどちらかを単独投与したときに生じる副作用と比較して、望ましくない副作用がより少なくなる、使用。
【請求項６】
対象における血糖レベルの恒常性、血清カリウムレベルの恒常性、血清尿酸レベルの恒常性、正常な心室リズム、及び正常なＱＴ間隔からなる群から選択される状態を促進するために、インドリンと共投与するための薬剤を調製するための抗アルドステロン剤の使用であって、
前記薬剤とインドリンとの共投与では、前記薬剤またはインドリンのどちらかを単独投与したときに生じる副作用と比較して、望ましくない副作用がより少なくなる、使用。
【請求項７】
前記望ましくない副作用が、心臓イオンチャネルに対する作用、血清カリウムレベルに対する作用、血清マグネシウムレベルに対する作用、血清尿酸レベルに対する作用である請求項５又は６に記載の使用。
【請求項８】
前記インドリンがインダパミドである、請求項１から７のいずれか１項に記載の使用。

【請求項９】
前記抗アルドステロン剤が、アルドステロン受容体遮断薬及びアルドステロン合成の阻害剤からなる群から選択される請求項１から７のいずれか１項に記載の使用。
【請求項１０】
前記アルドステロン受容体遮断薬が、スピロノラクトン及びエプレレノンからなる群から選択される、請求項９に記載の使用。
【請求項１１】
請求項１から１０のいずれか１項に記載の使用であって、前記インドリン及び前記抗アルドステロン剤からなる薬剤が、単一の送達ビヒクル中で同時投与されるよう製剤化されている、使用。
【請求項１２】
前記単一の送達ビヒクルが経口投与用に製剤化されている、請求項１１に記載の使用。
【請求項１３】
前記抗アルドステロン剤及び前記インドリンが２以上の送達ビヒクルにより提供される、請求項１から１０のいずれか１項に記載の使用。
【請求項１４】
請求項１から１３のいずれか１項に記載の使用であって、前記薬剤がタンパク尿の予防又は軽減、ナトリウム利尿の促進、及び高血圧の予防又は軽減からなる群から選択される機能を有する薬剤をさらに含む、使用。
【請求項１５】
請求項１４に記載のさらに含まれる前記薬剤が、アンジオテンシン変換酵素阻害剤、抗レニン剤、エンドセリン拮抗薬、カルシウムチャネル遮断薬、β遮断薬、酸化窒素供与体、神経節遮断薬、αメチルドーパ、α２遮断薬及び抗炎症剤からなる群から選択される、請求項１４に記載の使用。
【請求項１６】
インドリンと抗アルドステロン剤とを含む組成物。
【請求項１７】
対象におけるタンパク尿、高血圧、アルブミン尿、ナトリウム貯留、低カリウム血症、高カリウム血症、高尿酸血症、脂質異常症、及び高血糖症からなる群から選択される状態を治療するために、抗アルドステロン剤と共投与するためのインドリンを含む組成物。
【請求項１８】
対象におけるタンパク尿、高血圧、アルブミン尿、ナトリウム貯留、低カリウム血症、高カリウム血症、高尿酸血症、脂質異常症、及び高血糖症からなる群から選択される状態を治療するために、インドリンと共投与するための抗アルドステロン剤を含む組成物。
【請求項１９】
前記状態と関連する疾患が、対象におけるインスリンシグナル伝達障害、真性糖尿病、Ｉ型糖尿病、ＩＩ型糖尿病、妊娠性糖尿病、メタボリックシンドローム、メタボリックシンドロームＸ、シンドロームＸ、インスリン抵抗症候群、リーベン症候群、ＣＨＡＯＳ、栄養不良関連真性糖尿病、糖尿病性腎症、腎症、糸球体疾患、肝疾患、腎疾患、膜性糸球体腎炎、重症心不全、ネフローゼ症候群、全身性エリテマトーデス、グッドパスチャー症候群、ＩｇＡ腎症、アルポート症候群、急性溶連菌感染後糸球体腎炎（ＰＳＧＮ）、細菌性心内膜炎、ＨＩＶ誘導性腎症、糸球体硬化症、巣状分節状糸球体硬化症（ＦＳＧＳ）、膜性腎症（膜性糸球体症）、肥満、微小変化型疾患（ＭＣＤ）、心不全、高血圧、肝不全、急性腎不全、慢性腎疾患、鬱血性心不全、タンパク尿腎疾患、糖尿病性腎症、糸球体腎炎、アミロイド症、及び薬物誘導性腎疾患からなる群から選択される疾患である、請求項１７又は１８に記載の組成物。
【請求項２０】
対象における血糖レベルの恒常性、血清カリウムレベルの恒常性、血清尿酸レベルの恒常性、正常な心室リズム、及び正常なＱＴ間隔からなる群から選択される状態を促進するために、抗アルドステロン剤と共投与するためのインドリンを含む組成物であって、

前記インドリンと抗アルドステロン剤との共投与では、前記インドリンまたは抗アルドステロンのどちらかを単独投与したときに生じる副作用と比較して、望ましくない副作用がより少なくなる、組成物。
【請求項２１】
対象における血糖レベルの恒常性、血清カリウムレベルの恒常性、血清尿酸レベルの恒常性、正常な心室リズム、及び正常なＱＴ間隔からなる群から選択される状態を促進するために、インドリンと共投与するための抗アルドステロン剤を含む組成物であって、
前記抗アルドステロン剤とインドリンとの共投与では、前記抗アルドステロン剤またはインドリンのどちらかを単独投与したときに生じる副作用と比較して、望ましくない副作用がより少なくなる、組成物。
【請求項２２】
前記インドリンがインダパミドである、請求項１６から２１のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項２３】
前記抗アルドステロン剤が、アルドステロン受容体遮断薬及びアルドステロン合成の阻害剤からなる群から選択される、請求項１６から２１のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項２４】
前記アルドステロン受容体遮断薬が、スピロノラクトン及びエプレレノンからなる群から選択される、請求項２３に記載の組成物。
【請求項２５】
前記インドリン及び前記抗アルドステロン剤が、単一の送達ビヒクル中で同時投与されるよう製剤化されている、請求項１６から２１のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項２６】
前記単一の送達ビヒクルが経口投与用に製剤化されている、請求項２５に記載の組成物。
【請求項２７】
前記インドリン及び前記抗アルドステロン剤が２以上の送達ビヒクルにより提供される、請求項１６から２１のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項２８】
タンパク尿の予防又は軽減、ナトリウム利尿の促進、及び高血圧の予防又は軽減からなる群から選択される機能を有する薬剤をさらに含む、請求項１６から２７のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項２９】
請求項２８に記載のさらに含まれる前記薬剤が、アンジオテンシン変換酵素阻害剤、抗レニン剤、エンドセリン拮抗薬、カルシウムチャネル遮断薬、β遮断薬、酸化窒素供与体、神経節遮断薬、αメチルドーパ、α２遮断薬及び抗炎症剤からなる群から選択される、請求項２８に記載の組成物。